

※シンボルマークは、津波をはじめとする自然災害から子供を守る大人を表現しています。

第2回 文部科学省：緊急スクールカウンセラー派遣事業
「文科省・全国生涯学習ネットワークフォーラム 2013」参加事業(申請中)

東北みらい創り サマースクール

— 3.11の記憶を風化させず、教訓を未来につなげて行く —

2013年8月9日(金)▶11日(日)

会場：岩手教育会館大ホール、岩手県民情報交流センター「アイーナ」
盛岡地域交流センター「マリオス」



東北みらい創りサマースクール実行委員会

岩手大学、岩手県立大学、関西学院大学、いわて防災安全推進機構、岩手日報社、IBC岩手放送、創造的復興教育協会、富士ゼロックス、JTB東北盛岡支店、ユー・アイ・コミュニケーションズ

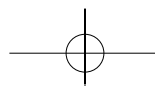
〈事務局〉〒020-8551 盛岡市上田4丁目3-5 岩手大学地域連携推進センター内
TEL:019-621-6491 FAX:019-621-6493

主催●東北みらい創りサマースクール実行委員会

岩手大学、岩手県立大学、関西学院大学、いわて防災安全推進機構、岩手日報社、IBC岩手放送、創造的復興教育協会、富士ゼロックス、JTB東北盛岡支店、ユー・アイ・コミュニケーションズ

協賛●富士ゼロックス、NTTドコモ、ヨーズマー、岩手銀行、北日本銀行、川徳

後援●岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、遠野市教育委員会、雫石町教育委員会、紫波町教育委員会、矢巾町教育委員会、滝沢村教育委員会、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、朝日新聞盛岡総局、毎日新聞盛岡支局、読売新聞盛岡支局、盛岡タイムス社



震災の記憶と教訓を風化させることなく、 私たちは広く情報発信を継続してまいります。

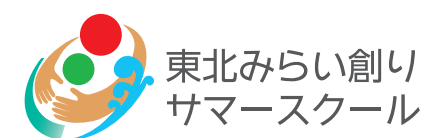
3.11 東日本大震災の発災から3度目の夏。

私たちは、被災地の記憶を風化させることなく、防災や復興のプロセスにおいて得られた教訓や研究成果を被災地に持ち寄り、各地で猛威を振るう自然災害からの被害を最小限に留めるべく、全国はもとより全世界に向けて情報発信していくために、昨年8月、「第1回東北みらい創りサマースクール」を開催いたしました。

この試みは、お蔭様で多数の方にご参加いただき、今後長期間に渡り継続開催することをお約束して終了いたしました。それを受け、今年は「心のケア」をメインテーマに据え、各種のワークショップをはじめとする多彩なプログラムを用意して、3日間の日程で「第2回 東北みらい創りサマースクール」を開催します。どれも参加は自由です。参加された皆様がたくさん「気づき」を持ち帰られることを、実行委員一同、心から願っております。



現在の大槌町の様子（2013年7月22日撮影）



サマースクールは、 何をどう伝えるか、 を皆で探る場



実行委員長

堺 茂樹

岩手大学地域防災研究センター長・
工学部教授

早いもので、東日本大震災の発災から3度目の夏を迎えております。今年2回目を迎える「東北みらい創りサマースクール」は、被災経験を風化させることなく次世代に伝え、東北の明るい未来を創る活動を推進し、またそうした意識や熱意を持つ人々のネットワークを築くために、今年も盛岡市を主会場に3日間の予定で開催する運びとなりました。本サマースクールの開催に当たりご支援を賜りました方々と準備に携わっていただいた方々に、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

さて、発災からのこの2年半、今回の地震・津波の特徴や発災のメカニズムなどについての様々な検証がなされ、多くのことが明らかになってきました。それに伴い、何をどう伝えるか、をしっかりと見据える必要も出てきたように感じます。防災を考える上では、経験に学ぶことは重要ですが、経験のみに依存することは、むしろ危険です。なぜなら、自然界では、似たような現象は繰り返し起きますが、同じ現象は二度と起きないからです。東日本大震災の中でも、経験に頼ったがために危険な状況を招いた例はいくつも見られます。東日本大震災から学ぶべきものはたくさんありますが、その中には固有なものや普遍的なものがあり、その違いが分かるように伝えていかなければなりません。

何をどう伝えるか、への答えを出すのはそう簡単ではありません。このサマースクールも被災経験の伝承を目指していますが、いろいろな試みの繰り返し中で、伝えるべきものが固まり、伝え方にも工夫が加わるのだと思います。昨年の第1回を締めくくるとき、最低でも20年は続けよう、と力強い宣言で終了したことにそうした気持ちも込められています。

今年度の「東北みらい創りサマースクール」は、幸いにも文部科学省の復興支援事業に採択され、被災地において喫緊の課題である「心のケア」を主要テーマとして開催されます。第1日目は、文部科学省の山下審議官による基調講演に始まり、これまでの復興活動の報告、さらに被災地の復旧・復興活動、特に「防災」「教育」「メディア」の分野で優れた活動をされた方々にお贈りする「東北みらい賞」の表彰式と受賞者によるパネルディスカッションがあります。第2日目には、「心のケア」をテーマに、専門家による11のワークショップが計画されています。最終日には、北三陸方面の被災地を訪れ、当時の様子や現状を見させていただきます。

最後になりますが、多くの方々においでいただき、それぞれのプログラムに積極的に参加することによって、このサマースクールを有意義なものにさせていただきますよう、お願い申し上げます。

被災地に集い、被災地に学ぶ。 被災地だからこそ「気づきの場」なのです。

私たちは、3.11の体験や教訓を風化させることなく子孫に伝えると共に、今を生きる人達にも、いつ遭遇するとも限らない自然災害に備えて伝えていかなければなりません。

私たちは、微力ながら東日本大震災で津波により大きな被害にあった岩手の地に、内外から広範な分野の専門家が集まってもらい、自由に参加できる体験や学習の場を提供します。様々な心の傷を秘めた子ども達。向き合う教師やご家族の心痛は想像を超えます。そんな被災地に暮らす人達を置き去りにすることなく、少しでも課題解決の糸口が見つかることを願い、3日間にわたる多彩なプログラムを構成しました。教育現場で悩む教師はもとより、一般市民の方々も自由にご参加ください。



仮設住宅 (金石市 / 2013年7月22日撮影)



三陸鉄道 島の越付近の復旧工事 (2013年7月22日撮影)



仮設住宅 (山田町 / 2013年7月22日撮影)



現在の山田町の様子 (2013年7月22日撮影)

サマースクールの3日間は、
明日の子供たちや地域を守るための
多面的な学びの場

「東北みらい賞」を創設しました！
大震災の復旧・復興に貢献した人(団体)を顕彰します。その功績を称えとともに広く社会に知らせることで、よりいっそうのご理解とご支援を多くの方々から得、活動が途切れることなく継続されることを望んでいます。



13:00	受付	会場／教育会館大ホール
13:30	開会宣言	堺 茂樹 第2回東北みらい創りサマースクール実行委員長
13:40	来賓挨拶	作山 雅宏 岩手県教育委員会教育次長
13:45	基調講演	山下 和茂 文部科学省初等中等教育局審議官
14:30	第2回「東北みらい賞」表彰式	【審査委員長】 堺 茂樹 実行委員長 【審査員】 平田オリザ 劇作家、大阪大学教授 高橋 孝助 創造的復興教育協会理事長 東根千万億 岩手日報社常務取締役編集局長
14:50	受賞者パネルディスカッション	【コーディネーター】 小村 俊平 創造的復興教育協会
15:50	(休憩)	
16:00	報告① 東日本大震災における 学生ボランティアの復興支援 ～岩手県立大学の取り組みから～	山本 克彦 岩手県立大学社会福祉学部准教授 八重樫綾子 NPO法人いわてGINGA-NET 代表
16:40	(休憩)	
16:50	報告② 遠野市の“ぬくもり”を活用した 「みらい創り活動」についてのご報告	樋口 邦士 富士ゼロックス(株)復興支援室 蔵本 敏宏 遠野・くら乃屋代表 県立遠野緑峰高校生徒
17:30	(終了)	
18:00	ウェルカムパーティー	会場／エスポワール岩手3階 特別ホール

第2回 「東北みらい賞」受賞者

【東北みらい賞とは】

東日本大震災の復旧・復興に貢献した人(団体)を顕彰する「東北みらい賞」を2012年に創設しました。「防災」「教育」「メディア」にかかわる分野で、すぐれた活動をした若手や中堅の人から選考し、3人(団体)に贈ります。その功績を広く社会に知らせると共に、今後もその活動への理解と支援を得ることを目的にしています。サマースクール初日に贈呈式と受賞者をパネラーとしたパネルディスカッションを開催し、活動内容を発表していただきます。



伊藤 聡 (いとう さとし)

一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校代表

1979年11月2日、岩手県釜石市生まれ。岩手県立釜石南高等学校卒業。釜石市鶴住居町の旅館「宝来館」番頭、NPO法人「ねおす」を経て、2012年に一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校を設立。

授賞理由◎「伊藤代表は釜石市内の旅館でグリーンツーリズムの企画運営を担っていたが、津波で自宅や職場が被災した。震災の翌月からボランティアコーディネートをはじめるとともに、グリーンツーリズムの経験を活かし、3・11後の新たな地域づくりを実践してきた。さらにこの活動を『放課後子ども教室』や体験プログラム『さんつなくらぶ』などの教育の分野にまで展開し、地域課題の解決に大きく寄与した。今後も地域と密着した活動を継続して頂きたい」



遠藤直哉 (えんどう なおや)

福島県立福島高校教諭(理科担当)

1973年5月5日、福島県福島市生まれ。新潟大学理学部卒、同大学院自然科学研究科修了。2011年8月から福島県立福島高等学校勤務。担当は理科(生物)。10年に文部科学大臣優秀教員表彰。

授賞理由◎「遠藤さんは高校生による様々な福島復興企画の立案と実行を支援した。県立福島高校は、文部科学省が科学技術分野での国際的な人材育成をめざす「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」に指定されており、ここで培われた企画力を活かし、震災後の地域復興にも大きく貢献した。遠藤さんの指導法は、復興教育に関わる教員のロールモデルとしても期待される」



千葉秀司 (ちば しゅうじ)

石(いその)神社宮司

1978年5月25日、宮城県石巻市生まれ。宮城県石巻商業高等学校国際経済学科卒、国学院大学文学部神道学科卒。2003年6月、石峰山石神社外雄勝・女川町17社宮司に就任。現在にいたる。

授賞理由◎「千葉さんは津波で破壊された国の重要無形民俗文化財『雄勝法印神楽(おがつほういんかぐら)』を地域のメンバーと復活させる活動を通じて、文化財の再生に留まることなく、コミュニティーの再生へとつなげていった。文化による地域再生の象徴的な事例として高く評価するとともに、継続しての活動をお願いしたい」



[基調講演]

「自立・創造・協働」社会の実現に向けた復興・防災教育を

山下和茂

文部科学省大臣官房審議官
(初等中等教育局担当)

国においては、教育基本法に基づく「第2期教育振興基本計画」が、本年6月14日に閣議決定されました。この計画では、今後の日本が目指すべき方向性として、東日本大震災の教訓を踏まえつつ、「自立・創造・協働」の3つの理念を示すとともに、以下の方針を明記しています。
「東北各地では、現地の人を中心にしながら、国内・国外からの多くの支援・協力を得つつ、復興に向けた新しい教育の創造の動きが始まっている。このような取組は今後の我が国の教育の在り方に大きな示唆を与えるものであり、こうした東北発の未来型教育モデルづくりを被災地だけでなく我が国全体で発展させていけるよう支援を行うことが求められる。」
東北みらいづくりサマースクールが、このような大きな使命を担う人々が集う場として、新しい復興・防災教育の成果を、ますます広く国内外に発信していかれることを心から期待しています。



[報告①]

東日本大震災における
学生ボランティアの復興支援
～岩手県立大学の取り組みから～

山本克彦

岩手県立大学社会福祉学部
准教授
災害復興支援センター
センター長

八重樫綾子

特定非営利活動法人いわて
GINGA-NET 代表

東日本大震災のような大規模自然災害においては、被害状況も地域によってさまざまであり、ニーズも日々刻々と変化します。そんななか災害発生当初より、大学生のボランティアは若さや体力、柔軟な発想、何よりも熱い想いを持って、現場に対応してきました。災害発生後の各時期に被災地域を支え、継続的に復興支援にまで寄り添えるマンパワーとして大学生への期待は大きいといえるのです。
災害の発生から現在に至るまでに、被災地の大学として、岩手県立大学学生 VC がどのように行動し、一つの大きなプロジェクトに至ったか。長期化するであろう復興支援に対し、学生のマンパワーをどのように組織化し運営したのかについて報告し、新たに起こる大規模自然災害に向けた支援モデルについて考えていきます。



[報告②]

遠野市の“ぬくもり”を活用した
「みらい創り活動」についてのご報告

樋口邦史

富士ゼロックス(株)
復興推進室室長

今回の東北みらい創りサマースクールでは、1年に渡る遠野市での富士ゼロックスの「みらい創り活動」をご報告致します。活動の中心は「みらい創りキャンプ in 遠野」で、昨年のサマースクール以来、「秋」「冬」「春」と季節毎に遠野の皆様を中心に、地域のみらいを語るキャンプを継続してまいりました。具体的には、遠野市の皆様と他地域からの参加者をつなぐ対話の手法を用いて、まち創りの実践を進めてまいりました。その一端を今回ご報告させていただきます。
特に、本年4月に行われた県立遠野緑峰高等学校の生徒さんと富士ゼロックスの2013年度新入社員との対話会では、地域の魅力やみらいについて有意義なコミュニケーションをはかることができました。加えて、遠野市で宿泊施設を運営されている蔵本様には、対話会に毎回ご参加頂いております。本発表では、新入社員代表者と緑峰高等学校の生徒さん、そして遠野市民を代表して蔵本様から直接ご報告いただきます。



アイーナキャンパス		ワークショップタイトル	講師	定員
学習室 1	9:00 ~ 12:00	2 被災地における心のケアを学ぶ ーリラクゼーション法を中心にー	山口浩 織田信男・佐々木誠	24名
	13:00 ~ 16:00	1 文化的特性を尊重した被災地支援：サイコロジカル・ファースト・エイド (PFA) の理論と実践	鈴木満 大沼麻実・佐藤麻衣子	42名
学習室 4	13:00 ~ 16:00	5 災害コミュニケーション ワークショップ	村山優子・小山雄士・船越海平・石原弘・アラカワケンスケ他	24名

アイーナ8階		ワークショップタイトル	講師	定員
会議室 802	9:30 ~ 12:00	4 「海洋教育と復興支援」	垣内康孝・貞光千春 堀田のぞみ	36名
	13:00 ~ 16:00	3 子どもたちのフォト記録を通し、 心の変化を見る	後藤由美 岡道一平・佐藤翔太	36名
会議室 803	9:30 ~ 12:00	5 災害コミュニケーション ワークショップ	村山優子・小山雄士・船越海平・石原弘・アラカワケンスケ他	100名
	13:00 ~ 16:00			
会議室 810	9:00 ~ 12:00	6 外部講師と連携し、生徒のモチベーションを高める授業実践の方法	小林潤一郎	36名
	13:00 ~ 16:00	7 全体性から生きる ～自分につながり、 相手につながって分断を越える～	金井達亮・佐野和之 東條さおり	36名
会議室 812	13:00 ~ 16:00	10 「心のケアと読み聞かせ」	八木淳子 村松文代・神山浩樹・甲斐谷望	150名
	16:30 ~ 17:30	12 サマースクール総括	堺茂樹	150名

マリオス		ワークショップタイトル	講師	定員
第1リハ室	10:00 ~ 12:00	8 被災者(児) およびケアするひとのための エンパワーメント・ドラマサークル	速水葉子 山本智紀・青木文香	60名
	13:30 ~ 15:30			60名
会議室 186	9:30 ~ 12:00	9 フィーリングアーツ	北村義博・吉岡隆之	25名
	13:00 ~ 16:00			25名

遠野ふるさと村		ワークショップタイトル	講師	定員
	10:00 ~ 15:00	11 みらい創りキャンプ in 遠野 2013 夏 (触れ合う、助け合う)	河野克典	20名

WORKSHOP 1

文化的特性を尊重した被災地支援：サイコロジカル・ファースト・エイド (PFA) の理論と実践



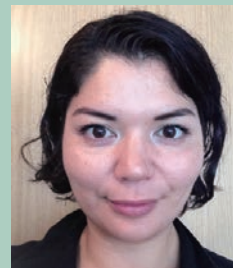
鈴木 満
外務省 メンタルヘルス対策上席専門官
(岩手医科大学客員准教授、特定非営利活動法人 心の架け橋いわて理事長)

ファーストエイド(応急処置)の原則は、「状況を悪くしないこと」と「回復できる環境を整えること」です。山奥で足にケガをして血が止まらないときのことを考えてみましょう。良かれと思ってハンカチで足を縛っていったん血が止まったとしても、きつく縛りすぎて長い間放置すれば血流不足により足を失う、ということも起こりえます。サイコロジカル・ファーストエイド(心理学的応急処置)も同じです。すべき事と、してはならない事を知ることで正しい応急処置ができるようになります。

サイコロジカル・ファーストエイドは、痛ましい出来事に遭遇した被災者を援助するための人道的、支持的な援助手法です。被災者の持つ時間感覚と文化を尊重して穏やかに寄り添いながら、その人が必要としている情報について集め、被災者個々の需要に応じた現実的な解決法をさがします。問題解決のための目標は小さくても達成可能なものにするよう助言し、被災者が孤立しないよう周囲の人々との関わりを促します。今回のワークショップでは、講義と実習により、日常生活でも役に立つ「人助け」の姿勢と手法について学びます。



大沼麻実
国立精神・神経医療研究センター



佐藤麻衣子
アメリカ・ケアズ(米国NPO)

WORKSHOP 2

被災地における心のケアを学ぶ
—リラクゼーション法を中心に—



山口 浩
岩手大学人文社会科学部教授

岩手大学三陸復興推進機構では、全学をあげて復興支援に取り組んでいます。

機構の中の生活支援部門「心のケア班」では、カウンセラーの派遣や、仮設にお住まいの方々や施設の職員を対象にリラクゼーション研修を行ってきました。

今回のサマースクールでは、前半でケア班の活動状況を知っていただき、後半は現地で行われているリラクゼーション研修を体験していただきます。

研修では、最初にストレスと対処のためのリラクゼーションの関係を理解します。つぎに、体のごくわずかな変化を感知する機械を使って、自分で確認しながら呼吸を整えます。上手にリラックスできるとポイントが増し、画面が変化するので、楽しみながらリラクゼーションのスキルを身につけられます。

「いつでもどこでもリラックスできるスキルの修得を体験してください。」



織田信男
岩手大学人文社会科学部教授



佐々木誠
岩手大学三陸復興推進機構特任准教授

WORKSHOP 3

「子どもたちのフォト記録を通し、心の変化を見る」



後藤由美
3/11 キッズ フォト ジャーナル代表



3/11 キッズ フォト ジャーナルは、2011年6月の設立以来、被災した東北の子どもたちがふるさとの復興の様子や日々の生活の移り変わりを写真と文章で記録し、世界に発信、その記録を次世代、未来の日本へ繋げるプロジェクトとして、活動を続けてまいりました。本プロジェクト参加メンバーの子どもたちは、世界の人々に被災地をより深く知ってほしいという強い想いを原動力に、独自の視点で被災地の現実を捉えて写真と文章に表現しています。

この活動で子どもたちが記録してきた写真と文章の重要性を感じるとともに、3年目を迎えるこの活動にとっても、被災地の子どもたちの記録も写真では伝えにくくなってきていると感じています。直接的ではないが間接的に伝えられるもの、内面的なものを写し出していかに記録していくかが、今後の課題となっています。3年目の活動に入るメンバーのフォトジャーナル記録を通し、心の変化を見つめてみます。



岡道一平
岩手・釜石、高校2年生



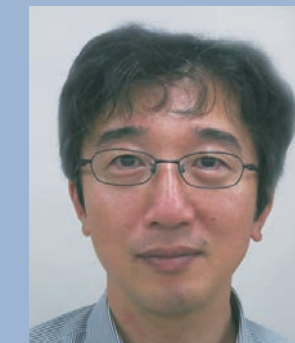
佐藤翔太
宮城・気仙沼、高校2年生

WORKSHOP 4

海洋教育と復興支援

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンターは、震災後、いち早く岩手県において理科授業のサポートを実施してきました。また、弊センターは教育の新しい潮流である海洋教育コンテンツを開発しています。今回、教育を通じた復興を支援するため、我々の強みである理科教育と海洋教育をテーマに参加させていただき、実験や製作など手を動かす体験を通して、震災で恐怖の対象となってしまったかもしれない海との絆について考える機会を持ちたいと思っています。

弊センターで開発した「すぐに授業で使える」海洋教育および理科教育のコンテンツの一部を、実際に体験していただき、具体的な取り組みの様子をご紹介します。また、「海藻押し葉」作りは本学独自のゲルドライヤー製法により、海藻の美しさを失うことなく、素晴らしいアートに仕上げることができます。皆さまとの、心あたたまるひとときを楽しみにしております。



垣内康孝
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター特任准教授



貞光千春
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター特任准教授



堀田のぞみ
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター特任講師



8.10^{2日}sat WORKSHOP PROGRAM

会場: アイーナキャンパス/学習室 アイーナ8階/会議室 802.810.812
 マリオス/第1リハ室・会議室 186 遠野ふるさと村

WORKSHOP 5 5 ※午前は、アイーナ会議室 803。午後はアイーナ会議室 803 + 学習室4に会場が変更になりました。

災害コミュニケーションワークショップ



村山優子
岩手県立大学

本ワークショップは、昨年引き続き2回目となります。今回は、東日本大震災の記憶を以下に後世に残すかを考える1日のワークショップを開催します。

午前は、災害対策活動をされてきた方々の経験談を中心に講師の皆様にお話しいただき、震災での必要となる情報などについて考察いたします。小山氏は、岩手県の災害対策本部で指揮をとられ、その後、総務部総合防災室長として、復興活動にも尽力されました。船越氏は、山田町での復旧活動の中で、特に情報に関する支援に尽力されてきました。石原氏は、田野畑村を中心にオンライン津波資料館の構築に尽力されています。アラカワ氏は、災害情報のデザインについて考えておられます。

津波は三陸沿岸に今までも幾度となく襲いました。世代を超える情報の伝達を行う手段として、本ワークショップでは、「情報タイムカプセル」を提案します。午後は、数々ずつのグループに分かれ、「情報タイムカプセル」があったとしたら、20～30年後の人達に何を伝えるかを考えます。



小山雄士
岩手県オイルターミナル
株



船越海平
山田町役場



石原 弘
NPO 設立予定



アラカワケンスケ
Earth Literacy
Program

WORKSHOP 6 外部講師と連携し、生徒のモチベーションを高める授業実践の方法

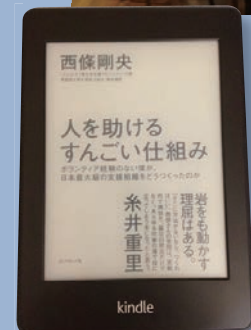


小林潤一郎
田園調布双葉中学高等学校

震災後の被災地には、大学教授や起業家、芸能人やスポーツ選手など、様々なゲストが訪れイベントを行いました。これらは生徒を勇気づけましたが継続的な実施は困難です。そこで、いかにネット等を使ってゲストと連携し、授業でのライブ感を作っていくかを考えるワークショップを行います。

「ふんばろう東日本支援プロジェクト」代表 西條剛央さんの動画「構造構成学を学ぶ」
<http://www.youtube.com/watch?v=9ocpPPjzHIU>
 を用いる予定です。

東日本大震災を踏まえ、これからの有事に活かせる有効な支援の仕組みを考えるプロセスと一緒に体感して頂きます。



WORKSHOP 7 【全体性から生きる ～自分につながり、相手につながって分断を越える～】

「人は生まれながらにして自分以外の人を思いやり、与えたり与えられたりすることを楽しむ」(マーシャルBローゼンバーグ)といわれている。しかし、わたしたちは常識や社会通念、または場の空気を読むことなどで無意識のうちに本来の感情を抑圧することがある。結果、他人や自分に対して暴力的な言動を引き起こし、思いやる気持ちを発揮できなくなる。そこで、グループやペアになり、カードやシートを利用し、他人や自分にどんな感情が起こっているのかを探っていく。それがネガティブな感情であっても、感じること、その奥に眠っているニーズ(必要としていること)に気づくことができる。ニーズにたどり着くことが出来ると、人生を豊かにするための具体的な行動やあり方が見えてくる。さらに、他人や自分の感情・ニーズに気づけるようになると、共感性の高い関係を築けるようになる。以上のことを体感するワークになっています。



金井達亮
西武学園文理中学高等学校



佐野和之
西武学園文理中学高等学校



WORKSHOP 8 エンパワーメント・ドラムサークル



速水葉子
音音(ねね)工房・世田谷リズム主催

ドラムサークルとは、ファシリテーター(案内役)の案内で参加者が輪になって世界各国の打楽器、手拍子やボイスなどを使って自分なりの即興演奏を楽しみつつグループ全体が調和したリズム曲をつくりあげていく活動です。

非言語の「リズム」という手段を使うことから、音楽の経験や障害の有無、年齢、国籍、性別を超えて参加が可能です。参加者各自の感情を解放させながらも、「ひとりではない」からこそ奏でられる共同のリズム曲を体験することは深い部分で、自己肯定感、開放感、連帯感を強めます。自己表現、ストレス解消、チームワーク醸成など、様々な効果が期待できるため、欧米では教育現場、企業研修、公共イベントなど幅広くとり入れられています。

午前中は子供から大人まで、ファミリーでも楽しめるコミュニティ醸成のためのドラムサークルを、午後は、主に、被災地教育現場での応用を目的として、教育関係者むけにドラムサークルを行います。



山本智紀
たむたむチンパンジー主催



青木文香
旭学園(特別支援学校)

WORKSHOP 9

フィーリングアーツ

フィーリングアーツは、現代美術作家の北村義博が創作した「絵画と光彩と音楽」を融合させた体感型の統合芸術です。具体的には、地球、宇宙、生命、天上の世界などをテーマとして、特殊な画材で描かれた抽象絵画の大型キャンバス(作品)に、調光コントローラーを用いて多彩な色調の照明を投射することにより、作品に動的な変化が生まれ、そこに心安らぐ美しい音楽や歌声がながれ癒しの空間が出現します。体感者は、感動、安らぎ、希望などの様々なフィーリングを伴って、自由に自分なりのイメージを作品に投影して膨らませることができ、言わば、絵と光と音と人の心が対話する統合芸術です。高齢者施設、児童養護施設、緩和ケア施設を含む医療・福祉・教育施設や被災地などで年間100回程度の草の根的な公演活動が行われ、現在940回に及んでいます。さらに海外公演も活発に行われ、ドイツ、バングラデシュ、カナダ、タイ、アメリカ、中国、インドネシア、ケニア、ベトナム、韓国、パキスタン、フィンランドなどで延べ約40回に及んでいます。



北村義博
現代美術作家



吉岡隆之
奈良学園大学設置準備室



1000回公演プロジェクト(高齢者施設での公演)



パキスタン北部大震災被災地(バラコット)での公演

WORKSHOP 10

「心のケアと読み聞かせ」 協力:IBC 岩手放送



八木淳子
岩手医科大学講師・いわてこども
ケアセンター副センター長

「心のケアと読み聞かせ」のテーマの下、「座学」「ディスカッション」「実践」という流れで、「読み聞かせ」への理解を深めていきます。

講演「子どもの育ちを見守る心のケア」では、震災後に設置された「いわてこどもケアセンター」の副センター長、八木淳子氏を講師に迎え、最前線の現場から「震災とこどもの心」について、またケアの中でも「読み聞かせ」の効果についてお話いただきます。

パネルディスカッション「読み聞かせの効能～被災地の現場を交えて」では、医師や図書館スタッフのほか、実際に被災地で子どもたちと向き合う児童館スタッフの生の声を伺いながら、IBCアナウンサーの経験談を交え、読み聞かせの可能性を探ります。

また参加者に「心の癒し」を実感・体感していただくプログラムも実施します。あわせてIBCアナウンサーによる「絵本・童話の読み聞かせ」も披露し、「読み聞かせ」の素晴らしさを体感します。



村松文代
IBC アナウンサー



神山浩樹
IBC アナウンサー



甲斐谷望
IBC アナウンサー

WORKSHOP 11

みらい創りキャンプ in 遠野 2013 夏 (触れ合う、助け合う)

「みらい創りキャンプ in 遠野」の2年目の開催です。昨年1年間は対話の手法を用いて、街づくりの実践を進めてきました。この活動の様子は第一日目(8月9日)の集中セミナーで発表致します、是非ご参加ください。

本キャンプでは、「遊び」をテーマに互いの話をじっくりと聴き合うことでの心のケアを体感頂きます。この夏キャンプから初参加の方(20名)とこれまでのキャンプメンバー約20名との合同開催になります。新旧メンバーでペアになって、ご自身のエピソードを思いつままにお話し頂きます。話すことで自分自身を再発見することができます。一方、聴き手は相槌を打ちながらとにかく聴くことに集中(傾聴)して頂きます。言葉を挟まずに、聴き続ける事の難しさを実感していただきます。さらに、心に残ったエピソードを参加者全員で共有します。これによって全体での共感を育み、触れ合い助け合う「対話」を実践・体感して頂きます。古民家での開催です、カジュアルな服装で起こしてください。



河野克典
富士ゼロックス コミュニケー
ション技術研究所



WORKSHOP 12

サマースクール総括



堺 茂樹
東北みらい創りサマースクール実
行委員長

前日のセミナーに続く、本日の11講座のワークショップ。今回のサマースクールでは、「心のケア」を中心テーマに据え、皆さんに多面的な手法を体験していただきました。

3.11東日本大震災に起因する被災状況はあまりにも多様。精神的な損傷も本当に様々です。特に心に傷を負った子ども達について、それを癒すことは被災状況が様々だけに一筋縄ではいきません。今回、私達は参加された皆さんに少しでも課題解決の糸口を探っていたような構成をとったつもりです。

この総括では、今後ますますサマースクールの内容充実を図るために、皆さんといっしょに考えてまいりたいと考えています。サマースクールの締めくくりとしては是非ご参加ください。

なお、サマースクールは明日まで。明日は被災地ツアーで被災者の体験談を交えて北三陸方面を視察します。





大津波は巨大防潮堤（写真右側）を乗り越え、商店街や住宅を破壊した＝2011年3月12日、岩手県宮古市田老（岩手日報提供）



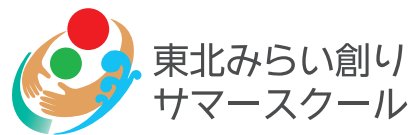
商業地などとして活用が検討されている岩手県宮古市田老の中心市街地＝2013年7月12日（岩手日報提供）

現役記者のための短期研修セミナー 「次の大災害に備えて— 大震災報道の教訓と 今後を考える」

3・11大震災から2年以上が過ぎました。これまでの報道にかかわる教訓と課題について、さらに今後発生する可能性がある南海トラフ大地震や首都直下型大地震などに対し、どのような備えで臨むべきなのか。全国の新聞、通信社の災害担当デスクやデスク経験者を対象に8月9日から3日間、盛岡市内や三陸沿岸被災地において研修セミナーを行います。対象者をデスククラスにしたのは、大災害が起こり混乱するなかで、的確な判断をして指示を出すデスクの役割の重要性が、東日本大震災報道を通じて再確認されたことによります。判断ミスによって多くの被災者の人命や人権問題、自社のスタッフの人命も危険にさらすことになりかねません。また、復旧・復興に際しての正確で的確な紙面作りが求められていることも痛感させられました。社の枠にとらわれない共同企画の模索もできればと考えています。14社（地方紙、ブロック紙、通信社）16人が参加の予定です。

<企画運営>

東根千万億（岩手日報社常務取締役編集局長）
徳山喜雄（朝日新聞東京本社記事審査室幹事）



東北みらい創り
サマースクール

3日目 8.11 sun

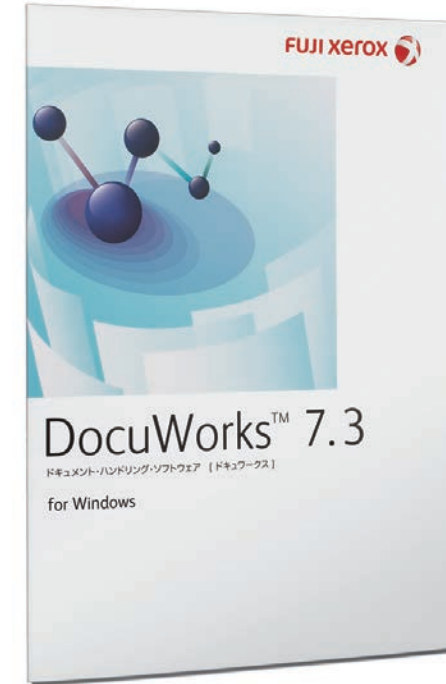
被災地視察

岩泉町・龍泉洞～北山崎～三陸鉄道・
震災学習列車～久慈・やませ土風館

時間	見学場所等	備考
8:00	盛岡駅西口発	アイーナ1F ファミリーマート前 ※ホテルニューカーリーナに立ち寄ります。
↓ (バス移動)		
10:00 ▼ 11:00	岩泉町 龍泉洞 日本3大鍾乳洞 3.11において内部はほとんど揺れなかったという話もあります。	<p>■東日本大震災における被災状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩泉町 / 死者：10名 行方不明者：0名 田野畑村 / 死者：17名 行方不明者：15名 普代村 / 死者：0名 行方不明者：1名 野田村 / 死者：39名 行方不明者：0名 久慈市 / 死者：3名 行方不明者：2名 (平成25年5月31日現在 岩手県総合防災室発表) <p>■北山崎 海面からそびえ立つ高さ200mの断崖絶壁。その美しさは洋上のアルプスと称されます。</p>
↓ (バス移動)		
11:30 ▶ 12:45	北山崎 (見学・昼食)	龍泉洞 北山崎
↓ (バス移動)		
13:00 ▶ 14:10	三陸鉄道震災学習列車 (田野畑→久慈)	■三陸鉄道社員または沿線住民が震災、被災時の状況をお話します。解説ポイントでは、停止または徐行運転をいたします。
↓ (バス移動)		
14:15 ▶ 15:15	道の駅久慈 やませ土風館	■朝の連続テレビドラマで話題の久慈市の道の駅。岩手沿岸や県北周辺エリアの観光と特産品の情報発信基地です。話題の「海女丼」にトライ？
↓ (バス移動)		
18:00	盛岡駅西口着	お疲れ様でした！

※道路状況などにより見学場所、時間等は変更になる場合があります。

FUJI XEROX



より効率的な
情報共有・活用を実現

ドキュメントハンドリング・ソフトウェア

DocuWorks 7.3

<http://docuworks.fujixerox.co.jp>

富士ゼロックス北日本株式会社
980-0022宮城県仙台市青葉区五橋1-1-23 カメイ五橋ビル 3F
富士ゼロックス株式会社
107-0052 東京都港区赤坂九丁目7番3号

お問い合わせ 0120-274-100 <受付時間>9:00～12:00、13:00～17:00(土、日、祝日除く) XEROX、およびそのマークは、米国ゼロックス社の商標です。

信頼の、さらにその先へ。

地域の復興を支え、
みなさまと共に
豊かな未来の創造に
取り組みます。

岩手銀行
<http://www.iwatebank.co.jp/>

Welcome to the Smart Life
もっとペンリに、面白く、スマートに。

NTT
docomo
スマートライフのパートナーへ。

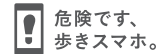
ドコモのソートツプ New Galaxy New Xperia



Color

Color

詳しくは



ふる里を、もり上げよう。

私たちは忘れない
今もなお、辛い思いで被災している方々を
私たちは忘れない
地域を愛する人々の心を
私たちは忘れない
ICTが人々に元気を与えることを



ホワイトスペースを活用した
エリア限定放送事例



南相馬チャンネル
(南相馬市)



OCTOBER FILM CHANNEL
(六本木ヒルズ)



震災放送
(六本木ヒルズ)



なんとちゃんねる
(南砺市)

第1回『東北みらい賞』を頂きました！

yoozma
www.yoozma.jp

まちが、めざめる。
ひとが、うごきだす。
そして、
きもちがかよいあう。

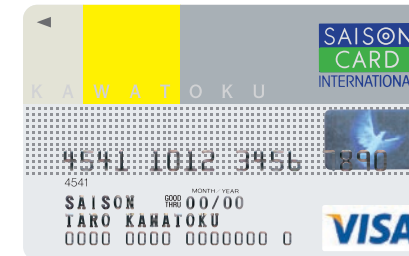
illustration: ikuko yamamoto

あなたに笑顔を。
まちを元気に。
北日本銀行とお客さま、
心はひとつです。

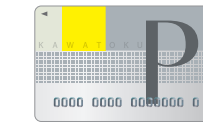


北日本銀行

メリットいっぱい、二つのカード。 【カワトクカード会員募集中】



川徳はもちろん、国内・海外で幅広くご利用いただけるカードです。
川徳でのクレジットご利用で、カワトクポイントに加え、セゾン
永久不減ポイントがダブルで貯まります。



【カワトクPカード】
川徳でお使いいただける現金専用カードです。
クレジット機能はございません。

**KA
WA
TO
KU**
川徳 盛岡市東園1丁目10番1号
電話(019)651-1111(代表)
ホームページをご覧ください
kawatoku.com



ご協賛いただきました各社様に実行委員一同心から御礼申し上げます。
復興はまだまだ緒に就いたばかり。
今後とも末長いご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

東北みらい創りサマースクール実行委員会